

様

年 月 日

ハーセフチン・パクリタキセル併用療法

この治療では次の2種の薬を使用します。

パクリタキセル（タキソール注）：細胞の分裂を抑えて病気の細胞が増えるのを抑えます。

トラスズマブ（ハーセプチン）：病気の細胞が増えるために必要な物質を取り込むための手

（HER2：ハーツウ）を抑えることによって効果を現します。

<投与スケジュール> . . . 4週間 1コース 今回 コース目

<薬品名> <投与方法・時間>	<薬の作用>	1コース目				2コース目
		1日目	8日目	15日目	22日目	29日目～
ケラセト注・デキソ注・ガスター注・ホララミン注 <静注>	嘔気止め・7Lキ-の予防					
ホララミン注・5%ブドウ糖100ml <点滴静注30分>	7Lキ-の予防					
ハーセフチン 添付溶解液 <点滴静注90分>	化学療法剤					
タキソール（パクリタキセル） 生食250ml <点滴静注60分>	化学療法剤					

<薬剤投与日の注意>

- ★ 点滴部位が痛くなったり、腫れたりした場合や点滴が落ちなくなった場合は、薬液が血管外へ漏れていることがありますので、すぐに申し出てください。
- ★ 投与開始後、アレルギー症状や不快症状（インフュージョンリアクション）が現れることがあります。発熱、悪寒、嘔気、息苦しさや胸の痛み、脈の乱れ、顔の火照り、発汗異常、低血圧、かゆみ、発疹などの不快症状があればすぐに申し出てください。
- ★ パクリタキセル注にはアルコールが含まれています。アルコールにアレルギーがある方やお酒に弱い方は、予め申し出てください。
- ★ ハーセプチンには心不全等の副作用の報告があるため、治療前後に必ず心臓の機能検査を受ける必要があります。特に心臓の病気や高血圧のある方は注意が必要です。
- ★ 薬剤の投与は、血液検査やその他の必要な検査を行いながら進めていきます。副作用の発現・合併症の有無によって治療の途中でも、薬剤の減量・変更や中止されることがあります。

<備考>

<副作用>

副作用と症状	発現時期、頻度	対策	備考
アレルギー症状 顔がほてる、息苦しい 胸が苦しい、発疹	開始直後 ～数日 重度0.1%未満	あらかじめ3種の予防薬を使いますが、症状があればすぐに申し出て下さい。	
インフュージョンリアクション（点滴反応） 発熱、悪寒、嘔気 頭痛、咳、発疹など	点滴中～24時間以内に多い 約40%	解熱剤やアレルギーを抑える薬を使用します。	
白血球減少 発熱 風邪様症状	1～2週で最低	うがいや手洗い・休養を心がけて下さい。白血球を増やす薬や抗生物質を使うこともあります。	
血小板減少 出血	2週間前後	けがや打撲、歯ぐきからの出血、鼻血などに気をつけて下さい。止血剤を使ったり、輸血をすることもあります。	
貧血 倦怠感、息切れ	—	採血結果によっては、造血剤を使ったり、輸血をすることがあります。	
吐き気・嘔吐	比較的少ない	我慢せずに吐き気止めを使用してください。	
心臓障害 呼吸困難、咳、むくみ 不整脈など	まれ	定期的に心臓の機能検査を受けてください。	
関節痛・筋肉痛	2～3日後に現れる。一過性	必要に応じ鎮痛剤や漢方薬などを使いま	
末梢神経障害 手足のしびれや麻痺 びりびり感	3～5日後に現れる。治療継続に従って現れ安くなる。	手指の運動、温浴・冷水浴などを行ってください。またビタミン剤や漢方薬など使うこともあります。	
脱毛	2～3週間後に現れる。80～90%以上	治療が終了すれば徐々に回復します。気になる方は帽子やスカーフ・かつらなどをお使い下さい。	
発熱	6～10日後、初回多い	必要時解熱剤を使用してください。	
口内炎、下痢、便秘、むくみ、肝障害、腎障害、肺障害、難聴など			

<相互作用>

- 次薬を併用するとパクリタキセルの副作用が現れ易くなることがあります。自分勝手に他の薬、栄養食品などを使用しないでください。

ビタミンA、アゾール系抗真菌剤(水虫の薬)、マクロライド系抗生物質、女性ホルモン剤、多くのCa拮抗剤(血圧の薬)、ワソラン(心臓の薬)、シクロスポリン(免疫抑制剤)、ミダゾラム(鎮静剤)、フェナセチン(解熱剤)、キニジン(不整脈の薬)など

<注意事項>

- パクリタキセル（の薬剤を溶かすための溶剤：ひまし油）により、まれに重いアレルギー症状を起こすことがあります。点滴開始後から、特に丸1日くらいは、より注意し、不快な症状が現れたらすぐに申し出て下さい。
- ハーセプチンのインフュージョンリアクションは普通は軽症で初回治療時に多いことが分かっています。対症療法で対処します。
- ここにあげた副作用は、代表的なものです。必ずしもこれらの症状が現れるとは限りません。もし副作用が現れても、早期に発見、対処すれば、治療の継続が可能です。過剰に心配せず、気になること、調子の悪いことがあれば、医師・薬剤師・看護師に申し出て下さい。